令和5年度
滝川市議会総務文教常任委員会
行政視察報告書

視察期間 ： 令和5年10月10日（火）～11日（水）

視察場所 ： 新潟県長岡市

1 全 般

本年5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行して感染者が減少傾向となり、徐々に人流が増え活気が戻りつつある中、10月10日(火)から11日(水)の行程で総務文教常任委員会の行政視察を実施した。

本視察の狙いは大きく2点あり、その1点目は近年予期しない集中豪雨による河川の氾濫や大規模地震に備え、平成16年から25年の間に大きな災害に6回も被災している長岡市の防災に関する取組みを研修するとともに、平成16年に発生した中越地震の資料や記録を集積した施設「長岡アーカイブセンター きおくみらい」を視察して、改めて本市における防災体制の強化と防災教育の在り方について考えること。

また、2点目は長岡市の「中心市街地整備及び活性化への取組み」と複合施設「アオーレ長岡」を視察し、本市における最大の課題であるJR滝川駅前の整備など、賑わいのあるまちづくりに資することである。

長岡市と本市では人口及び財政規模など異なる点が多々あるが参考になることも多く今後の議員活動の資を得ることができたものと思料する。

◇視察参加者名簿

委員長	安 樂 良 幸
副委員長	荻 野 仁 史
委 員	髙 橋 江海子
委 員	好 川 章
委 員	福 井 雅 章
委 員	木 下 八重子
委 員	三 上 裕 久
委 員	山 口 清 悦
委 員	柴 田 文 男
委 員	関 藤 龍 也
随 行(議会事務局)	山 本 亜希子

◇新潟県長岡市

長岡市は、新潟県の中南部(中越地方)に位置する市。県内では新潟市に次いで第2位の人口を持ち、中越地方では最多の人口(258,638人(令和5年5月1日現在))を有する。まちの中心には市の中心部には雄大な信濃川が流れかつては越後長岡藩の城下町として栄えたことでも有名。

▲日本三大花火大会のひとつ長岡花火大会

▲棚 田

▲国指定重要無形民俗文化財
越後山古志 牛の角突き

◇日 程

別紙 「令和5年総務文教常任委員会行政視察日程表」を参照

※出典:新潟観光なび「写真ライブラリー」

2 視察状況

(1) 防災体制の強化と防災教育の取組みについて

ア 視察日時及び対応者

(ｱ) 視察日時

令和5年10月10日(火) 14時15分から16時15分（※講義前に外観および周辺視察）

(ｲ) 対応者

長岡市議会副議長 山田 省吾 氏

長岡市危機管理防災本部部長兼危機対策担当課長

原子力安全対策室参事 入澤 義和 氏

長岡市危機管理防災本部防災政策課長

原子力安全対策室特命主幹 金子 元昭 氏

イ 概 要

(ｱ) 副議長挨拶

山田副議長から歓迎の言葉、長岡市の特性および名産、災害に強いまちづくりを目指した取組みと中心市街地を活性化させ、コンパクトシティを目指している旨のご挨拶をいただいた。

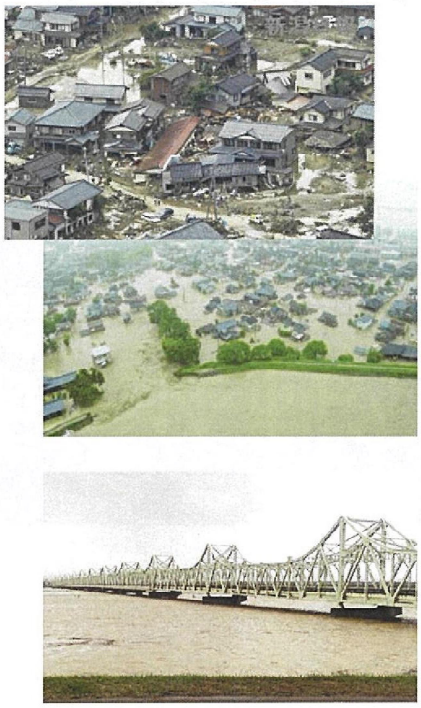
(ｲ) 長岡市における近年の災害について

長岡市については平成16年：中越地震、平成19年：中越沖地震、平成23年：豪雪、東日本大震災及び新潟・福島豪雨、平成24年：豪雪、そして平成25年：7月8月豪雨の計6回の大規模災害に被災している。

(ｳ) 防災強化に向けた取組み

α 平成16年の7．13水害、中越大地震、2年連続の豪雪といった経験を踏まえた見直しを行い、平成17年度には検証・検討を行い、平成18年4月に「長岡市防災体制強化の指針」をまとめている。

▲長岡市役所での講義の様子



▲長岡市の豪雨災害、台風被害

※出典：行政視察資料「長岡市の防災体制の取組について」

b　震災後、地域向けに行った主要な事業

（a）市民向け防災パンフレットの作成

「市民防災のしおり」、「自主防災会結成と活動の手引き」などの具体的な活動手順を明確化した各種災害対応マニュアルを作成。

(b) 自主防災会への支給制度

新潟県中越大震災復興基金による防災倉庫及び防災設備等に要する経費の補助(H19～H21の間、自主防災会を対象)

中越地震後、市民の防災意識が高まり、自主防災会組織結成率が40%→90%近くまで上昇

(c) 中越市民防災安全大学の開校

中越大震災で得た貴重な体験や教訓を後世につなぎ、更には地域の防災リーダーを育成することを目的に、中越市民防災安全大学を平成18年度から開校。修了生は、「中越市民防災安全士」として認定される。第1期生57名により「中越市民防災安全士会」が設立され地区防災訓練の支援等の活動を行っている。

(安全士会入会者数：延べ429人)

(d) 本部機能の強化

中越大震災では当時の市役所庁舎が被災し、災害対策本部を消防本部の会議室に一時的に移設している。

平成24年4月1日に市役所庁舎をアオーレ長岡に移設し、4階に災害対策本部を設置している。

アオーレ長岡は一般的な建物の1.25倍の耐震性を持ち、72時間(約3日間)運転可能な非常用発電設備が完備されている。また、停電時には主要に部屋は非常用発電設備に切り替えられ100%の電源が供給される。

災害対策本部には、大型ディスプレイに各種情報を一元表示することにより、総合的かつ同時の閲覧が可能である。また、市内の河川カメラ、国土交通省の道路カメラなどによりリアルタイムで現地の状況が確認できる。併せて、各種防災システムによる情報収集や気象情報、被害状況の共有も可能である。これにより、避難情報の発令など、迅速・的確な判断が可能となった。

(1)　長岡方式の避難行動

a 信濃川早期警戒情報

1　避難行動判定フロー

① わが家の特徴を確認（隣数、車の有無、親戚・知人など）
② ハザードマップで自宅の危険性を確認（浸水深など）
③ 避難のタイミング、避難先、移動手段等を決定

2　信濃川早期警戒情報　【長岡市独自】

避難の準備や早めの避難行動を促す情報として、避難情報を発令する前の警戒レベル２以下で発表

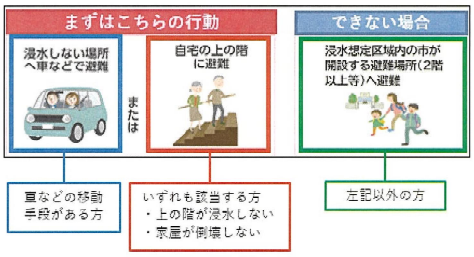
⇒ 浸水想定区域外の避難場所を開設

さらに水位が上昇したら、、、
「警戒レベル３・高齢者等避難」の発令で全避難場所を開設

3　長岡方式の避難行動

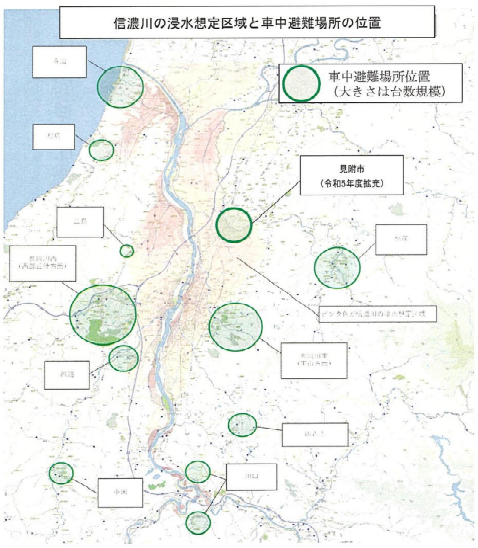
自宅内や車移動による安全確保を最優先に考え、市が開設する避難施設だけでない避難行動を

警戒レベル	市が発信する情報	取るべき行動
5	緊急安全確保	命の危険　直ちに安全確保！
4	避難指示	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者などは避難 ※高齢者などの要避難者以外も危険を感じたら自主的に避難
2	信濃川早期警戒情報 大雨・洪水注意報	浸水しない場所へ避難 避難の準備・確認
1	早期注意情報	災害への心構えを高める



※出典：行政視察資料「長岡市の防災体制の取組について」

b 広域避難



信濃川増水時の広域避難先として
見附市4施設と民間駐車場1施設が利用可能に
【令和5年度拡充】

信濃川増水時の避難場所を確保するため、見附市と避難施設の相互利用協定を締結（令和５年５月31日）。また、株式会社ダイナム（パチンコ店）とダイナム見附店駐車場の利用協定を締結（令和５年８月８日）し、車での避難場所を拡充しました。

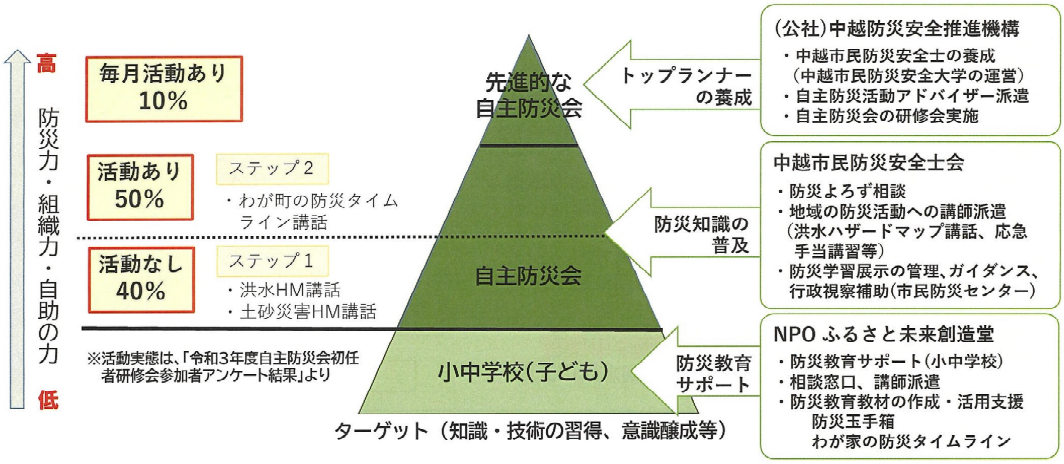
見附市内の車中避難場所(信濃川増水時に利用可能)

施設名	所在地	駐車台数※
みつけイングリッシュガーデン駐車場	見附市新幸町35番地	約120台
見附運動公園駐車場	見附市本町字焼田所1308番地3	約400台
見附市大平森林公園駐車場	見附市内町1432番地	約200台
見附市市民野球場駐車場	見附市片桐町500番地	約100台
ダイナム見附店駐車場	見附市上新田町133	約400台

※駐車可能台数は、施設の利用状況や時期、天候等により変動します。

（オ） 長岡市の防災教育

a 自主防災会の現状



b トップランナーの養成

中越市民防災安全大学の開校

- **平成18年度開校**
- **有識者による「安全」や「防災」をテーマに専門的な知識や災害時に役立つ実技、備えを学ぶ連続講座（全5日間、20講座）を開講**
- **毎年約50人が受講し、令和4年度までに延べ837人が修了**
  (令和5年は69名が受講し、内22名が女性)
  → 修了生には、地域の防災リーダーとなる「中越市民防災安全士」認定証を交付
- **修了生は「中越市民防災安全士会」に入会でき、ネットワーク形成と活躍の場の拡大が可能**
  → 安全士会入会者数：延べ429人(令和4年度 21人)
- **全国に通用する「防災士」の受験資格も取得可能(講座最終日に防災士試験あり)**
  → 令和4年までに延べ617人が合格(令和4年度48人)
- **受講生の大半は、仕事をリタイヤしたシニア世代、その他は学生(高校生、大学生)及び主婦が多い。**

※出典：行政視察資料「長岡市の防災体制の取組について」

c　防災知識の普及

中越市民防災安全士会

・平成19年3月に中越地震の経験から地域の防災リーダーの育成を目的として、「中越市民防災安全大学」の修了生有志が、継続的な地域防災知識の習得と地域での防災活動の実践につなげるために結成された。(令和5年5月現在、会員数175名)

・自主防災活動を活性化し、住民の防災意識・知識の向上を図るため、長岡市の委託を受け、防災よろず相談、講師派遣、防災学習ガイダンス及び行政視察補助、市民防災講座等の検討や資料作成を行っている。

d　防災教育サポート

(a) 防災部局と教育部局とが連携し、全小・中学校に毎年更新する教材「長岡市防災玉手箱」を設置

※「防災玉手箱」：授業や学びたい内容に応じて教材を選択しながら、児童生徒が分かりやすく、かつ、楽しく防災について学べる学習資料。

(b) 防災教育に関する総合相談窓口の設置と教育支援(NPO法ふるさと未来創造堂)

・ 防災玉手箱やわが家の防災タイムラインを活用した防災教育の相談、企画、運営、講師派遣、学校訪問や電話による課題聴　取等を実施(「御用聞き」)

・ 令和4年度の防災教育実施回数は、小学校18校(112回)、中学校16校(134回)実施

(c) わが家の防災タイムライン

・子ども達の防災教育を推進し、地域防災力の向上につなげることを目的とし、災害から身を守る行動を時系列で考える教材として作成

・長岡市洪水ハザードマップで示す「長岡方式の避難行動」を踏まえて、水害に備え、自分のとるべき行動を整理し、時間軸に沿ってまとめる各家庭オリジナルの避難行動を計画・策定

・本教材を用いて家族みんなで話し合いながら安全に避難するための準備や行動を考える契機を創出

(カ)　長岡アーカイブセンター　きおくみらい(現地視察)

対応者

公益社団法人　中越防災安全推進機構　マネージャー　赤塚　雅之　氏

・2004年に発生した新潟県中越地震の資料を集積した災害及び防災に関する啓発施設

・小千谷市と長岡市の4施設と3つのメモリアルパークを結ぶ「中越メモリアル回廊」の中の一つ

・被災状況や災害・防災に関する文献や写真・映像データを保有しており閲覧も可能

・防災関連会議等の主要開催場所として、そのセンター機能を有する施設

iPadで被災状況と地域文化を学ぶ

ホールでの防災学習

※出典：長岡アーカイブセンター　きおくみらい HP

▲2004年10月の新潟県中越地震で、崩れた土砂の中から93時間ぶりに奇跡的に救出された当時2歳の男の子の救出現場。東京消防庁のハイパーレスキュー隊が救出にあたった。当時の様子は「奇跡の救出劇」として世界中に配信され、その現場は、今もメモリアルパークとして残されている。

▲長岡市内の会社が開発した、簡単に組み立てられる発泡スチロール製のベット。

▲プライバシーを確保できるキャンプ用のテント。震災当時、(株)パタゴニアから寄贈された。

▲長岡市内の会社が開発した、ダンボール製の授乳室とトイレ。組み立てが簡単で軽量。

ウ　視察に参加した各委員の所感

◇防災士が市内だけで600人以上も存在しており、長岡市の防災教育に対する本気度が伝わる数字であり圧倒された。

◇災害を経験した長岡市の防災教育の徹底ぶりに感心した。
特に避難行動においては、長岡市独自の早期警戒情報をつくり、そのことにより住民の行動を明確化し、住民も協力し、一人の犠牲者も出さないという意気込みを感じる視察であった。
滝川市においても災害時の避難行動の具体的実習を年に数度開催することも必要であると感じた。

◇多くの災害を体験し犠牲者を出した都市であることから、防災教育が小・中学校の子ども達の段階から実施されている。災害の少ない本市においても、平素から市民への防災教育を実施すべきだと感じた。

◇大きな自然災害がたびたび発生している地域であり、防災に関する教育が行き届いていることを痛感した。
また、防災士資格取得者は女性も含め人数が多く衝撃を受けた。防災に対する意識が非常に高い地域だと感じた。

◇長岡アーカイブセンターきおくみらいでの映像で被災者ご本人による被災体験の語りを見て、滝川市でもこのような追体験の上映会を学校や市内施設で行えば、防災意識の向上に繋がると感じた。
復興は行政の力だけでは難しく、住民一人ひとりが防災意識を持ち、官民連携して同じ方向を向き互いに協力し合うことが大切であると感じた。

◇「中越市民防災安全大学」が設置され、防災士が600人を超えるなど、市民の防災への本気度が全く違うと感じた。
本視察は、滝川においても大きな災害が必ず来ることを前提に対策を急ぐべきだと考えさせられる視察であった。

◇生命、財産を脅かす災害に対し、自衛・自助・地域共助を醸成させて一丸となって困難を克服するという姿勢は滝川市も大いに見習うべきである。また、「総がかり」という統一理念で各自治体が同様に抱えるような諸問題にも取り組む姿勢が感じ取れた。

◇長岡市は高齢者住民への情報伝達手段として、緊急防災ラジオを配備し、それに対し補助金を支出している。本市においても実施すべきだと感じた。

◇長岡市は過去に中越大震災をはじめとし、大きな災害を体験している市であり、「きおくみらい」などを活用した防災教育に力を入れていると感じた。
滝川市は災害の少ないまちであるが、もっと防災教育に力を入れるべきだと考える。

◇平成16年の中越大震災をはじめとした大規模災害に幾度となく被災した長岡市だからこそ、子ども達を対象とした防災玉手箱などによる教育や大学生・社会人を対象とした中越市民防災安全大学の開講及び中越市民防災安全士会の結成などの各種施策を立案・実行して、市民と行政が一丸となって防災に取り組んでいる姿勢が大変参考になった。
災害の少ない本市においても平素から防災意識の高揚を図るための講話や警察・消防・自衛隊などの関係機関による協同(連携)訓練、町内会などを主体とした避難訓練などを今以上に実施して有事に備えることが肝要であると本視察を通じて強く感じた。

(2)　中心市街地整備及び活性化への取組みについて

ア　視察日時及び対応者

(ｱ)　視察日時

令和5年10月11日(水) 9時15分から11時15分

(ｲ)　対応者

長岡市中心市街地整備室 まちなか政策担当課長 西野 靖雄 氏

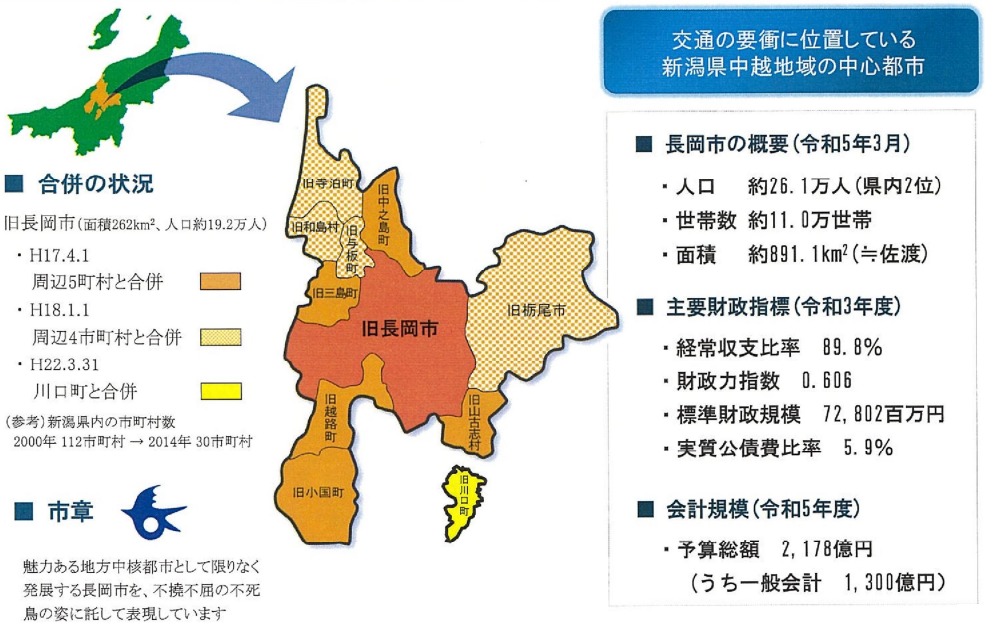
長岡市中心市街地整備室 まちなか整備担当課長 韮澤 太功 氏

長岡市市民協働推進部 市民協働課長 五十嵐 智行 氏

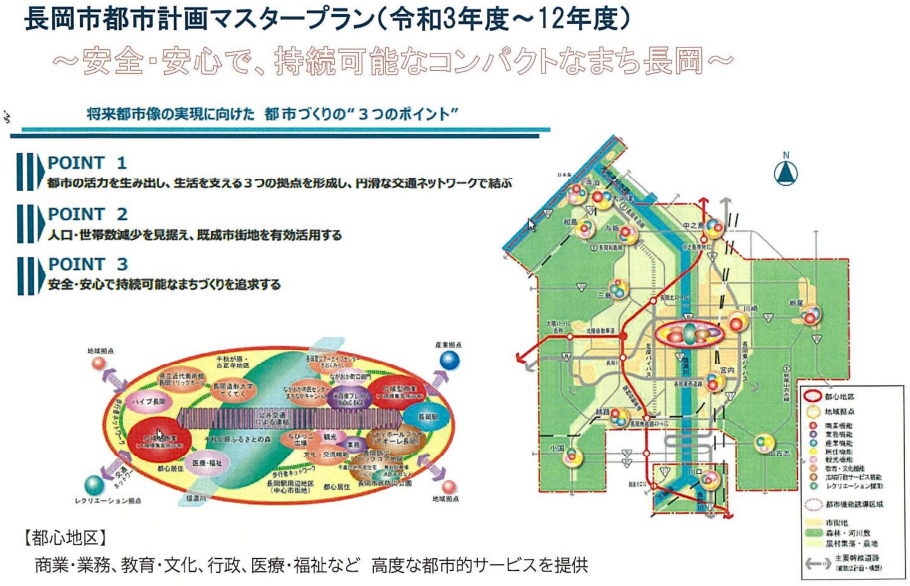
イ　概 要

(ｱ)　まちの概要

ａ　長岡市の概況



ｂ　長岡市全体のまちづくりの方針(将来都市像)



※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

c　長岡市まちなかの変遷(昭和の賑やかだった頃から平成の衰退へ)

【昭和47年　車や歩行者で混雑する長岡市大手通り】

【空き店舗が目立つ大手通り(平成10年頃)】

車社会の進展と郊外化

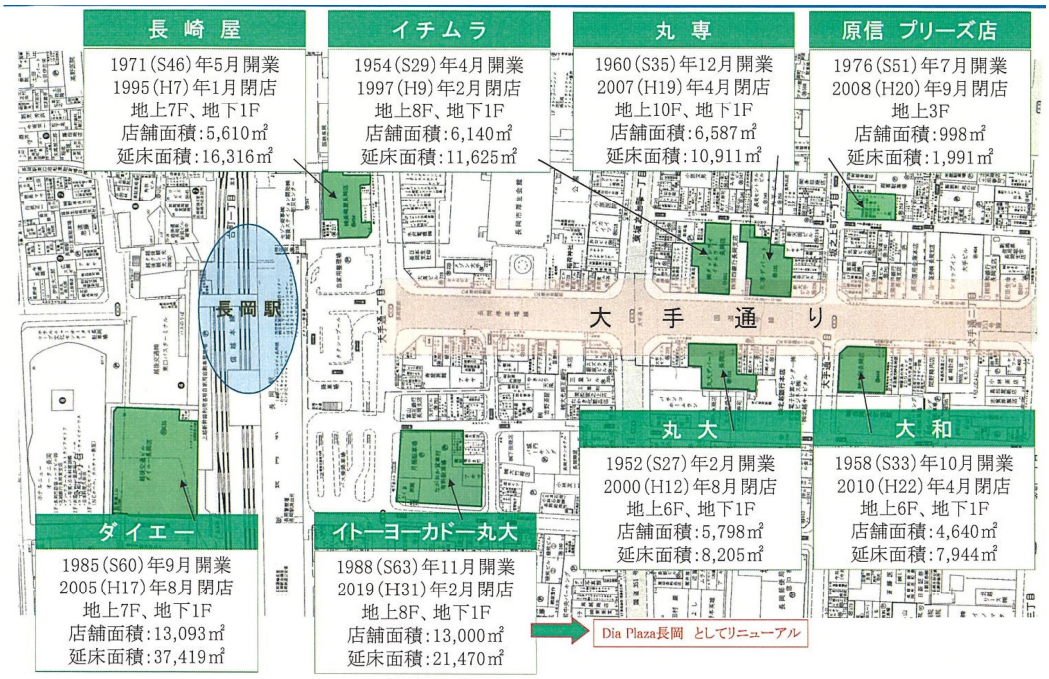
○ まちなかの空洞化の顕在化
○ 大規模商業施設の閉店

中心市街地の衰退

活性化に向けた政策的取り組みへ

d　まちなかの空洞

(a) 商業施設の連鎖的な閉店

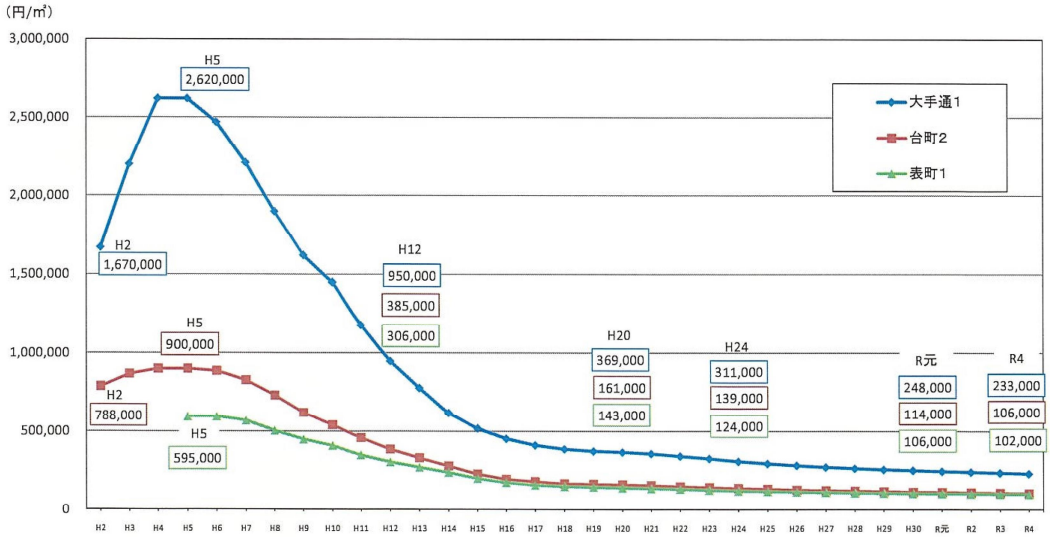


※出典:行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

(b) 地価の下落

まちなかの地価公示価格はバブル期の平成４年をピークに大幅に下落（ピーク時の約9～18%に減少）

◆地価公示の推移



■出典：毎年1月1日現在の地価公示（総務省）

(1) 行政機能のまちなか回帰(都市機能のまちなかへの集積)

活性化に向けた取り組み

○ H11.4　長岡市都市計画マスタープラン策定（初代）

・・・ 初代都市マスから**コンパクトなまちづくり**を実施

○ H13.10 「ながおか市民センター」オープン

・・・ 撤退した大型商業店舗を市が借り、**「市民協働」のまちづくりの実証実験**を実施

H15. 4 まちなか活性課設置

○ H16.3 『長岡市中心市街地の構造改革に関する提言』（中心市街地構造改革会議）

・・・ 郊外化から中心市街地への再集積へ（**「まちなか型公共サービス」の展開**）

H16.10 中越地震

○ H18.3 『長岡市中心市街地地区都市再生整備計画』の策定

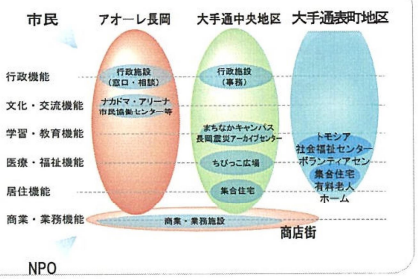
・・・ アオーレ長岡、大手通中央地区市街地再開発事業、大手口駅前広場再整備 等

○ H20.11 『長岡市中心市街地活性化基本計画（第1期計画）』の認定

現 在

厚生会館地区（アオーレ長岡）の整備、大手通中央地区・表町西地区市街地再開発事業の完了に伴い、市役所機能の「まちなか回帰」、都市機能の更新と再集積が進んだ

多くの人が「まちなか」を訪れることで、市民の意識が変わってきており、疲弊していた中心市街地がまさに息を吹き返しつつある



※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

(ｳ)　中心市街地活性化に向けて(全国初まちなか型市役所の実現)

(ｴ)　長岡市の実証実験(「市民との協働によるまちづくり」を目指して)

ながおか市民センター【H13.10】における「市民との協働のまちづくり」の実証実験

- 中心市街地の民間の空きビルを活用した市民との協働によるまちづくりの実証実験の場
- 極力役所らしさを抑え、自由で規制が少なく、入りやすい普段着の施設
- 「市民が育てていく」をコンセプトに、当初は、市役所窓口サービス、ちびっこ広場や市民が様々な活動を行うフリースペース等を整備
- 市民の声を反映し「学習コーナー」、「まちなか保育園」や「障害者プラザ」を開設
- 自然発生的に中・高校生の学習コーナーができたり、ちびっこ広場が子育て中のお母さん方の交流の場になったりと、日々進化を続けている
- 多くの市民に愛され、オープン以来延べ307万人以上が利用(H22.6現在)
- 全国の先進事例として、これまで自治体、商店街組合等から、延べ577団体、13,418人(H22.3.31現在)もの視察

※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

☆ 「ながおか市民センター(H13.10)」のオープン

撤退した大型商業店舗を市が借上げて「市民協働」のまちづくりの実証実験を実施

a 極力役所らしさを抑え、自由で規制がなく、入りやすい普段着の施設

b 「市民が育てていく」をコンセプトに、当初は、市役所窓口サービス、ちびっこ広場や市民が様々な活動を行うフリースペース等を整備

c 市民の声を反映した「学習コーナー」、「まちなか保育所」 や「障碍者プラザ」を開設

d 自然発生的に中・高校生の学習コーナーができたり、ちびっこ広場が子育て中のお母さん方の交流の場になったりと、日々進化を続けている。

e 多くの市民に愛され、オープン以来延べ307万人以上が利用

f 全国の先進事例として、これまで自治体、商店街組合等から延べ577団体、13,418人が視察に訪れた。

(ｵ) 「アオーレ長岡(H24.4)」のオープン

「アオーレ長岡」は、JR長岡駅前に位置し、ナカドマ（屋根付き広場）を中心に、アリーナ、市民交流ホールなどの公会堂機能と市役所、議会が一体となった多くの人が集まる"市民協働・交流の拠点"です。

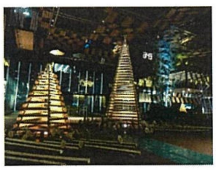
設計は、隈研吾建築都市設計事務所
（新国立競技場の設計者）

「アオーレ長岡」という名前

アオーレ・・・長岡の方言で
「会いましょう」を意味します。

アオーレは、人々が出会い、活動する拠点になってほしいという小学5年生の女の子の想いが込められています。（公募総数5,552点から選考）

【協働・交流の拠点】【長岡の顔】【ハレの場】【合併の象徴】【まちなかに溶け込む市役所】
５つの理念を持つアオーレ長岡では、市民発案の様々オープニングイベントが行われました。



a アオーレ長岡は、JR長岡駅前に位置し、ナカマド(屋根付き広場)を中心に、アリーナ、市民交流ホールなどの公会堂機能と市役所、議会が一体となった多くの人が集まる「市民協働・交流の拠点」

b 「アオーレ」は長岡の方言で「会いましょう」を意味する。
公募数5,552点の中から選ばれた、小学校5年生の女の子の思いが込められた名前

※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

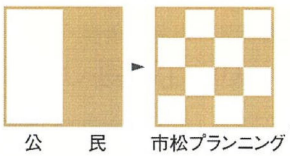
c 「アオーレ長岡」のコンセプトと特徴

○ まちに開けた“ナカドマ”

庭のようでも部屋のようでもあるナカドマ（屋根付き広場）は、建物中央に挟み込まれるように配置しています。
誰もが気軽に立ち寄り、活動できる空間です。

○ 公と民のモザイク

行政と市民の活動が、モザイクや市松模様のように交ざり合った計画です。



市民の皆さんが活動するすぐそばで市役所の業務が行われ、議会が開催されます。市松模様は壁面や大屋根のパターンとしても表現されています。

■ 施設の中心は“ナカドマ” ～ 外でも内でもない中間的な領域の空間

約2,250㎡の屋根付き空間 → アリーナの大開口を開ければ5,000㎡以上の大空間が出現！

・ナカドマの空間が主役、建物は脇役（通常の建物とは逆の発想）
　→ 正面玄関がなく、人々は、ナカドマを通って建物に出入りしている

・ナカドマからガラス張りの建物で活動している人が見え、逆に見られる環境
　→ お互いの気配が感じられる心地よい空間

d 「アオーレ長岡」でのイベント展開

※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

e 「アオーレ長岡」は市民協働の拠点(市民目線での管理運営)

チームカラー：ピンク

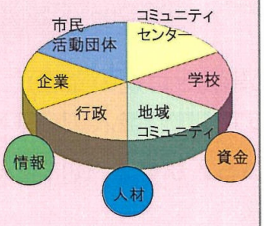
NPO法人市民協働ネットワーク長岡

◎市民協働センターの運営
◎市内全域で活動する団体の支援

【市民協働センター】
主な役割

○市民活動、ボランティア活動、コミュニティ活動など様々な自発的活動に関する相談
○必要な時に、主体を各資源につなげる活動の支援
○NPO法人など各種団体の立ち上げ・運営等の相談

互いに協力し合える協働のまちづくりを進めるためには、その環境をつくらなければいけません。
そのために、長岡市民・団体が持つ「人材」や「資金」、「情報」がつながる機会や仕組みをつくることで、市民の活動を活発にします。



連　携

長岡市　市民協働課
◎活動の下支え

チームカラー：ブルー

NPO法人ながおか未来創造ネットワーク

◎アオーレ長岡の管理運営
◎まちなかの賑わいづくり

【アオーレ長岡】
役割と運営方針

○市民の心の拠り所として、人とモノが集い、創造性を刺激し、実現できる場
○利用する市民の視点に立ち、自由度の高い運営を実現(指定管理者制・直営でもない"アオーレモデル")
○市民の知恵やアイデアに寄り添い、時には共に汗をかいて実現する運営スタイル
○"ダメ"ではなく、実現できる方法を共に考える姿勢
○準備～運営～撤収は利用者で(過剰に手を出さない)

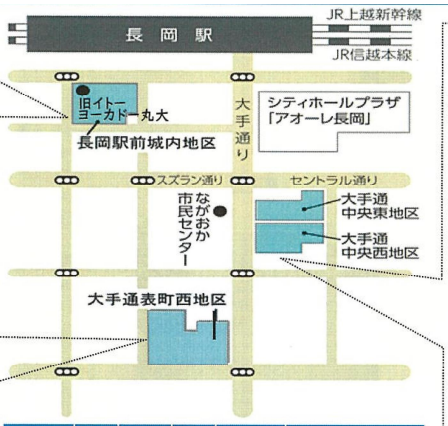
【安く】、【長く】、【自由に】、【飲食も】、【販売も】

◆「ナカドマ」「市民交流ホール」の使用料は無料(一般利用)
◆施設の開館時間は、午前8時～午後10時まで
(新型コロナウイルスの影響により、現在は午後9時まで)
◆ナカドマや回遊テラスは24時間開放
◆年末年始(12/29～1/3)を除き、1年中利用可能

(カ)　市街地開発事業

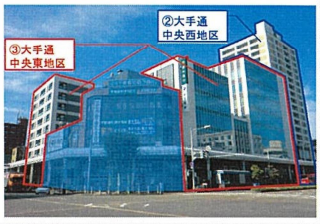
α　長岡市の市街地再開発事業

①長岡駅前城内地区（実施後）



②大手通中央西、③大手通中央東（実施前）

②大手通中央西、③大手通中央東（実施後）



④大手通表町西地区（実施後）

地区名	地区面積(ha)	延床面積(㎡)	施行	総事業費(百万円)	主要施設
①長岡駅前城内 S61～H1	0.5	22,000	組合	3,864	店舗、飲食、住宅
②大手通中央西 H17～H23	0.3	11,500	個人	3,820	集合住宅、店舗、子育て支援施設
③大手通中央東 H18～H24	0.5	18,300	組合	7,620	銀行、店舗、集合住宅、市役所機能、まちなかキャンパス、アーカイブスセンター
④大手通表町西 H24～H28	0.5	17,600	組合	6,320	老人ホーム、集合住宅、学習塾、歯科クリニック、社会福祉センター

※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

b　まちなかキャンパス長岡

(a) 講座等の企画・運営及び開催

・多様化、高度化する学びのニーズや学びのステージに応じた様々な講座を開催

・市内4大学1高専と長岡市で構成する「まちなかキャンパス長岡運営協議会」が企画・運営

・令和4年度は、全87講座、受講者数延べ2,527人

講座等の企画・運営及び開催　＜令和4年度実績＞ 全87講座 、受講者数 2,527人
＜令和3年度実績＞ 全75講座 、受講者数 3,026人　※新型コロナウイルスの影響により、15講座中止(R3)

多様化、高度化する学びのニーズや学びのステージに応じた、さまざまな講座を開催。
市内4大学1高専と長岡市で構成する「まちなかキャンパス長岡運営協議会」が企画、運営しています。

まちなかカフェ　まちなか大学　市民プロデュース講座　ボランティア企画講座　こども講座

(b) 施設の貸し出し

・大小6つの会議室や、ダンス及び体操ができる多目的スペース、音楽スタジオ、簡単な調理ができる創作交流室など、全11室の貸し出しを行っている。

・令和4年度は、施設利用者数70,959人、稼働率約66%

・長岡市民であれば、全て無料で借りることが可能

施設の貸出　＜令和4年度実績＞ 施設利用者数 70,959人　施設稼働率 65.69%
＜令和3年度実績＞ 施設利用者数 55,451人　施設稼働率 63.62%
※新型コロナウイルスの影響による臨時休館及び閉館時間短縮あり

大小6つの会議室や、ダンスや体操ができる多目的スペース、音楽練習のためのスタジオ、簡単な調理や工作ができる創作交流室など、全11室の貸出を行っています。

会議室　多目的スペース　スタジオ　創作交流室　交流広場

c　子育て駅　ちびっこ広場

(a) 買い物時の休憩、子育て相談・交流の場

(b) 保育士と司書が常駐し連携

・保育士による乳幼児の一時預かりを実施(1時間:300円)

・司書も常駐し、「まちなか絵本館」としての機能を拡充

(c) ハード・ソフトを市民が育てた施設

・保護者(現場)の声は「子育て駅」の源流

(d) 令和4年度年間入館者数:25,074人(69人/1日平均)

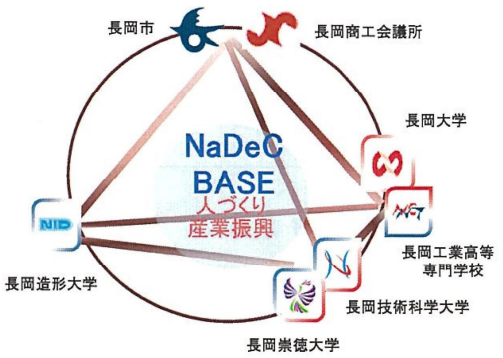
「子育ての駅 ちびっこ広場」の活動事例

▲ちびっこ広場　▲絵本読み聞かせ(まちなか絵本館)　▲ファミリー・サポート・センター事務局　▲赤ちゃん講座

※出典:行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

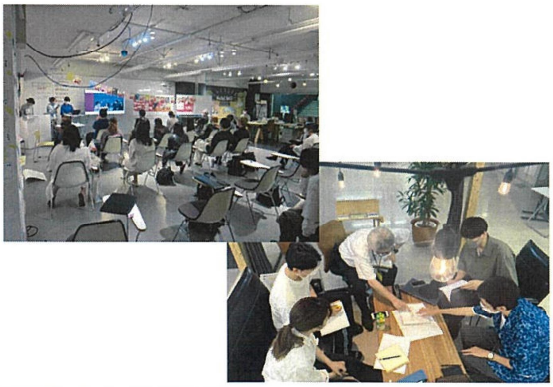
d　NaDeC構想(4大学１高専の多様な人材)

４大学１高専の持つ専門性、最先端工学からデザイン、マーケ　ティングなどの強みを生かして、人材育成と産業振興を図っていく。



NaDeCは、長岡（Nagaoka）の中心市街地を核として、４大学1高専の位置を線で結ぶと三角すい（Delta Cone）の形となることから、その頭文字をとった造語。
BASEの意味・・・（人の）本拠地, ホームグラウンド；（会社の）本社；（行動の）拠点, 基地, 出発点；（政治などの）支持基盤；（経済活動の）基盤

NaDeC BASE　４大学１高専と企業がコラボする拠点



「市内4大学1高専の特色、専門性と企業家の技術、自由な発想を融合し、新産業の創出と次代に対応する人材を育成する」ことを目的に、市内の大学・高専と企業がコラボする拠点です。
コワーキングスペース、オープンコラボスペース、ものづくり工房の機能を備え、運営は、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学、長岡工業高等専門高校、長岡崇徳大学（4大学1高専）と、長岡商工会議所、市が共同（ＮａＤｅＣ構想推進コンソーシアム）で行い、各校の学生も加わります。

e　米百俵プレイス　ミライエ長岡（令和5年一部 OPEN、令和7年全館 OPEN）

・基本方針「人づくりと産業振興」を総がかりで支える地方創生の拠点

①未来の長岡を支える人づくり・学びの拠点「知的創造」

②新しい産業を起こす人材・仕掛けの拠点「産業人の育成」

③産業界のイノベーションを促進する4大学１高専の拠点「産業基盤の強化・新技術開発」

・目指すコンセプト「新たな人、情報、挑戦に出会える、未来を創る場」

現代版「国漢学校・互尊学校」

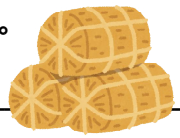
まめちしき

米百俵の精神とは・・・？

戊辰戦争に敗れ、長岡の人たちの暮らしは、その日の食事にも事欠くありさまだった。そんな中、小林虎三郎は「どんな苦境にあっても教育をおろそかにできない。」と主張し、明治２年(1869)5月１日から焼け残った長岡城下四郎丸村の昌福寺の本堂を仮校舎として国漢学校を開校した。 翌年5月、長岡の窮地を見兼ねて、支藩の三根山藩から見舞いとして米百俵が送られてきた。藩士らは当然分配されるものと待った。

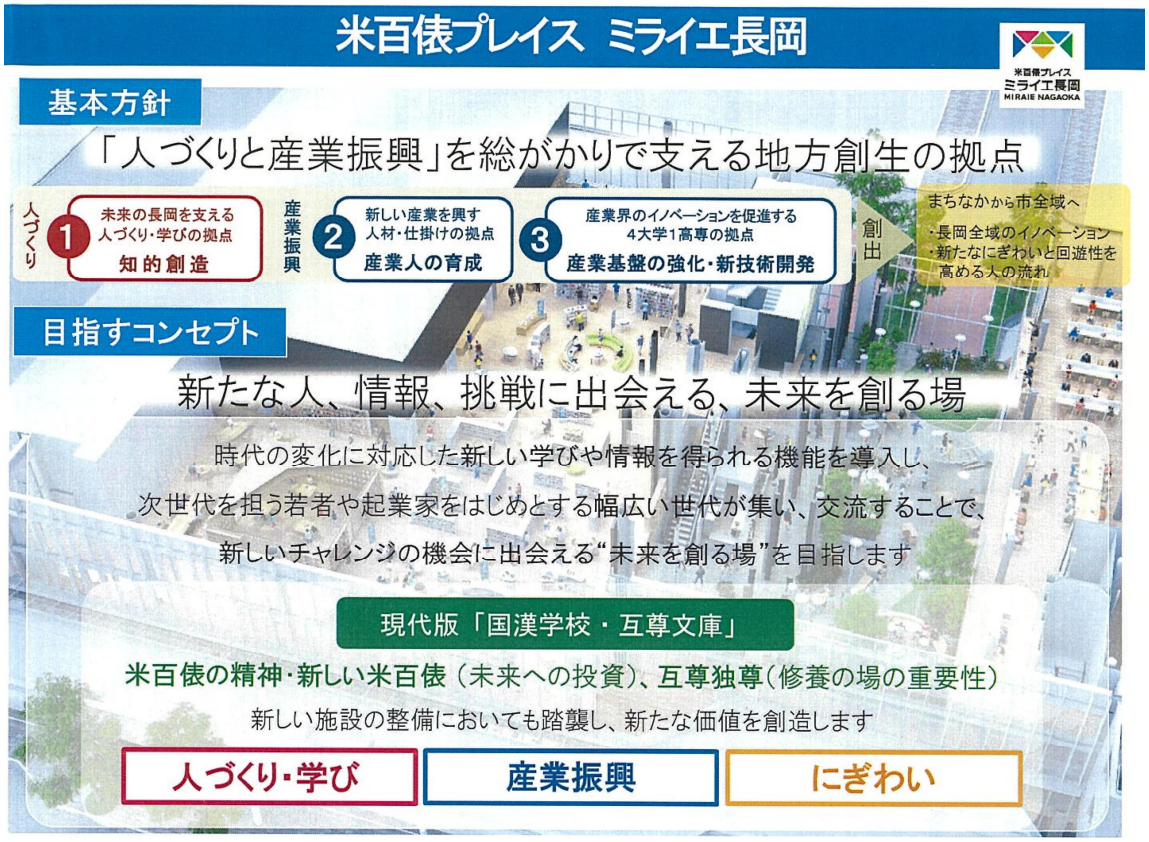
しかし、小林虎三郎は分配しても一人当たりいくらにもならないこの百俵を元にして学校を建てることが、戦後の長岡を立て直す一番確かな道だと説いた。そして、反対する藩士らを説得し、米を売り、その代金で国漢学校の書籍や用具に充てたのである。

明治2年6月15日には新校舎が完成した。それまでの藩校は漢字を主に教えていたが、国漢学校ではそれだけではなく、日本の歴史や国学、さらに洋学、地理や物理、医学までも質問形式の授業で学ぶことができた。また、身分にとらわれず誰でもが入学できた。



※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

(a) 基本 方針及び目指すコンセプト



(b) 人づくり・学び、産業振興及び賑わい創出

人づくり・学び

まちなか図書館

互尊文庫(図書館)を移転。「くらし」を豊かにする本、「しごと」に役立つ本、日常の「ひらめき」につながる本をそろえ、日々の生活の課題解決をサポートする図書館。居心地の良い空間はサードプレイスとしてリラックスの場に

子どもラボ

小学生の未来を生き抜く力を養う学びの場（個性を育む学び・本物の体験）

若者ラボ R7

中高生のにぎわいを生む居場所、個性や未来への可能性を伸ばせる場

歴史人物史展示 R7

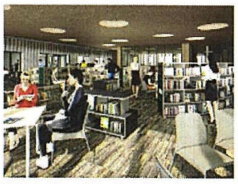
「米百俵」と「長岡イノベーター人物史」をテーマとした、デジタル技術を活用した思考・体験型の展示

小川当知 ▶
「国漢学校の図」

産業振興

■4大学・1高専、産業人のイノベーション拠点（NaDeC構想の実現の場）

起業支援・経営支援の相談機能、イノベーションサロン(会員制コワーキングスペース)、オープンイノベーションエリア、
教室、ファブラボ、ギャラリーラボ(大学・企業のショールーム) など



産業や社会を変える力を持つ多様な人材が集まり、新たな価値を創出する出会いと学びの場を提供。起業支援やビジネス支援、人材育成セミナー、授業連携等を実施。

■産業ビジネス支援の拠点 R7
（長岡商工会議所、市商工部、産業関係機関等の集積でワンストップ支援）

にぎわい R7

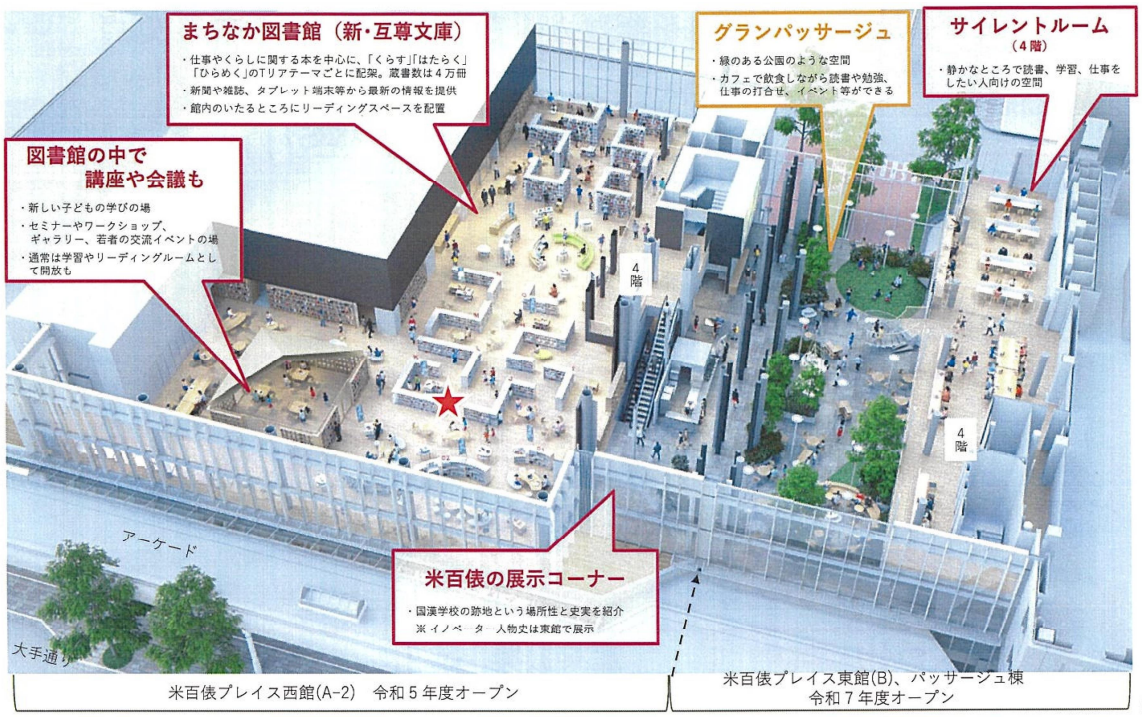
グランバッサージュ、屋上庭園、トオリニワ、飲食店など

誰もが気軽に集える緑あふれる憩いの交流スペース

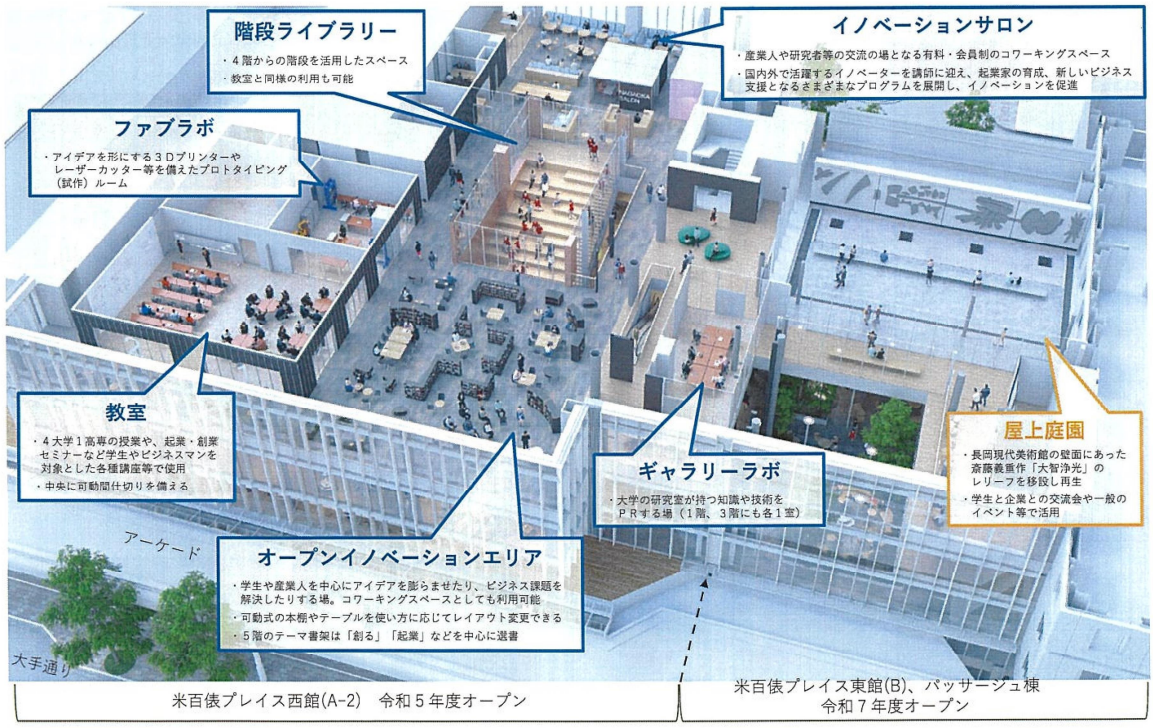
※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

(c)　施設のレイアウト

○ 3・4階(集い・憩い・学び・知る・賑わいのﾒｲﾝﾌﾛｱ)



○ 5階(起業・創業・産業支援のフロア)



※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

○ その他の施設

● 3階（米百俵プレイス 西館）　まちなか図書館

● 4階から5階（米百俵プレイス 西館）　ミライエステップ

● 5階（米百俵プレイス 西館）　イノベーションサロン

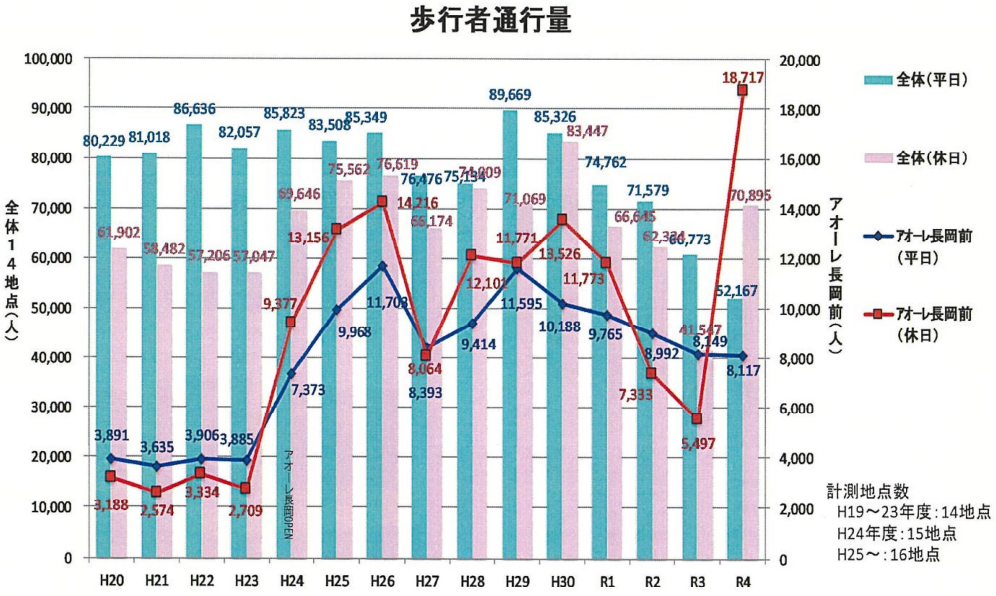
● 1階 米百俵プレイス東館　トオリニワ（大手通りから北側を望む）

(ｷ)　成果とその他の取組み

a　商業から市民活動の街へ再生

※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

b 中心市街地の歩行者通行量の推移



【長岡駅周辺の歩行者・自転車通行量調査（※H19以降に調査している14地点を対象）】

歩行者通行量画像解析カメラ整備事業

▶歩行者通行量調査について

中心市街地活性化基本計画の目標指標の一つである歩行者通行量調査は、人海戦術で計測を行ってきたが、測定値は天候状況に左右され、また計測箇所数の増加に伴う人員の確保が難しいことなどから、調査手法の検討が課題となっていた。

長岡市では、平成３０年度に、仮設の定点カメラで街路を撮影し、後日映像を見ながら人手によりカウントを行う計測方式を導入し、多数の計測員に頼らずに歩行者通行量の計測が可能であることを確認。

また、ＡＩ技術を用いた画像認識を歩行者通行量調査に活用するための検証にも着手し、一定の歩行者検出能力を確認。

このことから、令和３年度に歩行者通行量調査用画像解析カメラを常設し、令和４年度からはＡＩを活用した歩行者通行量調査に取り組んでいる。

▶事業の経緯

- ●平成30年度　仮設カメラでの通行量調査、ＡＩ画像認識の検証を開始
- ●令和２年度　カメラ常設化に向けた実施設計 ※
- ●令和３年８月　カメラ整備工事の発注 ※
- ●令和４年４月　カメラ供用開始

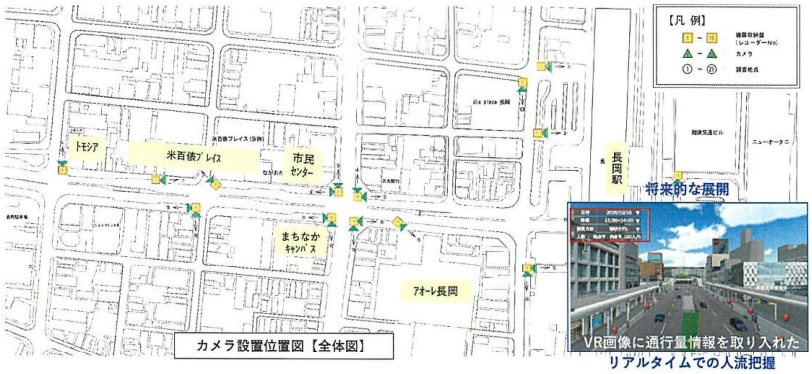
※都市構造再編集中支援事業（高質空間形成施設）を活用

▶カメラ機器等設置内容

◎ カメラ　２３台（調査地点：２１地点）
◎ 機器収納盤　１６面（レコーダー、UPSなどの内部機器を含む）
◎ HDD収納盤　１６面

常設の定点カメラ

ＡＩによる画像認識(イメージ)



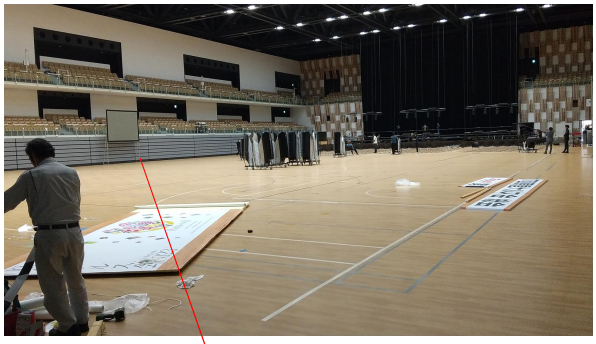
カメラ設置位置図【全体図】

※出典：行政視察資料「みんなが創るまちなかの価値」

(ｸ) 「アオーレ長岡」(現地視察)

▲アルビレックス長岡の本拠地

▲最大 5,000 人収容可能な可動式（3分割可能）なホール



▲座席が収納されている。

▲防音壁。この白壁を閉めることで防音になり、コンサートの開催も可能。ちなみに、アリーナのこけら落としは「いきものがかり」。

▲入口にある大画面。滝川市議会の名前が映し出されていた。

▲建物のメインとなる「ナカドマ」

▲ボランティアや NPO の支援を専門に行うフロア。市民と各団体とのマッチングも行っている。

▲「日本初！」のガラス張りの議場。1 階にあるので、市民が議場の様子を見ることができる。

ウ 視察に参加した各委員の所感

◇アオーレ長岡にある中土間はシンプルな空間でありながら、デザイン性が高く市民が訪れて長居したくなる落ち着いた雰囲気だった。

中土間とアリーナがフラットに繋がっているとともに、地球にやさしい雨水循環型環境制御システム付の屋根の導入など、季節を問わず様々な催しに幅広く対応でき、利便性と環境への配慮が両立されている施設であった。運営は、NPO法人と市が一緒に行っており、市民はアリーナ以外の施設は無料で使用でき、利用者が活き活きと活動しており、本施設が長岡市の文化団体の活動や教育に大きく関わっていることを確認した。本視察で、文化施設は行政機能と民間機能が共存する官民連携が人の流れを自然と発生させ、賑わい創出に繋がることがよく理解できた。

◇長岡駅西側の地域の活性化への取組みは極めて有意義な取組みであり、市役所機能のまちなか移転、社会教育施設の複合化や社会福祉拠点の整備など、空きビル、テナント対策を含めた様々な計画が連坦し、総合的効果を発揮する中心市街地活性化計画となっていた。

◇市の表玄関である駅前の活性化をどのようにするのかが、未来へ直結する最大のテーマであり、滝川市においても最重要課題である。

長岡市は、その課題解決のために計画段階から市民協働で取り組んできた。このような計画案は、コンサルタント会社への計画の基礎となる部分を任せ、その後に一部の人たちで具体案をつくるということが多い中で、10年の歳月をかけて市民協働で取り組んできたことが評価できると考える。また、市役所を駅前に配置したことにも感心させられた。特に市役所機能を分散することで街中への回遊(人流)を狙ったようだ。この点については、市民に不便をかけないための配慮もある。市民の利用頻度の多い窓口業務を1カ所に集約し、総合窓口として、ほぼすべての手続きが駅前のアオーレ内の市役所で可能となり、視察時も混雑していた。

滝川市の駅前整備について、市民協働で計画案をつくるべきと考えを新たにした。

◇複合的施設の利用度が高くなるように、住民の意見を採り入れている。

◇視察対象である「まちなか型市役所」の実現と行政機能分散配置政策による人流回遊性を狙った政策は復興を起点に経緯した長岡市と異なるアプローチの滝川市においては部分的な参考にとどまると考える。しかしながら、滝川市駅周辺開発の今後の取組みについては人流創出や回遊性をいかに長岡市のような独自性を実践でき得るか、長岡市の「総がかり」を参考に多くの意見を収集、検討すべきと感じた。

◇中心市街地整備にあたり、長岡城本丸跡地を中心に計画したことは、長岡市の大きな決断を感じた。また、アオーレ長岡は市議会議場及び市役所事務所が、ガラス張りとなっており、これが市民目線の改革とすれば多少の疑問は残るが、全国一を視野に入れた改革と解釈しました。

◇アオーレ長岡は、JR長岡駅に連絡道で直結した市役所機能を備えた複合施設で1階に市議会議場及び市役所総合(ワンストップ)窓口を配置し、機能やデザインにおいても市民の創造性を刺激するかつてないコミュニケーションの取れる空間だと感じた。また、冬期においても様々な活動ができる屋根付きの中土間やアリーナがあり、市民の交流拠点となっており、周辺施設への波及効果が期待できると思った。

長岡市は「中心市街地活性化基本計画」を策定・取り組んだ結果、疲弊していた中心市街地に人が

戻り、賑わいが創出されていた。
今後、滝川市の顔である駅前の開発を早期に進めるため長岡市の取組みを参考にしていきたい。

◇市役所併設型の複合施設であり、デザイン的にずば抜けていました。中でも特に印象的だったのは、コンシェルジュさんが居て、不明な点をコンシェルジュさんに問うと解決してしまうところでした。
また、複数の手続きを一括して対応するワンストップサービスについても利便性を感じました。
最後に、1階にあったガラス張りの市議会議場が美しかったです。

◇新潟県第2の都市であり、人口 27 万人規模の都市と当市においては実施可能な施策は限られると思われる。また、市民協働で取り組んでおり、計画案の段階から市民意見を十分に取り入れ、課題等の解決策を進めていることが参考となった。

◇中心市街地の活性化については、長岡駅の周辺で行政や議会機能を備えた複合施設であるアオーレ長岡を核としてまちづくりを進めていると感じた。特に、駅周辺には駐車場をつくらず中心市街地へは徒歩で移動させる発想には驚いた。長岡市と本市では人口や財政規模は異なるが、計画段階ら市民の意見を採り入れるなど、参考になる点は多々あり有意義な視察となった。